



お題：受難から復活まで

猪口大記神父

皆様、ご復活おめでとうございます！！

さて、皆様におかれましては、ご復活を相応しくお迎えする為、四旬節を犠牲と愛の業にお捧げになられた事と思います。

年度末から年度始めにかけての忙しい時期にそれでも参加する主日のミサ、告知するとミサの参加者が減るといふ我慢大会のような目的の良く分からない黙想会、世の中の暗い部分にスポットを当て良い事に使われると信じて出す四旬節の愛の献金……

日本で信仰生活を実践するキリスト者として生きる、というだけでも多くの犠牲が付き物です。欧米やその旧殖民地と異なり行事や休暇に典礼暦が反映されたり配慮されることなどありません。更にこどもが減る信徒が減る司祭が減る献金が減ると、常に行き詰まった様な暗い空気に満ちた中で繰り返される果てなき会議に「世の楽しみよ、去れ！」と英雄的な信仰の発露を求められ、教会行事や活動に喜びや楽しみを求めるならば「信仰の本質では無い！」と切り捨てられる。

皆さん、もっと自信もっていいですよ。教会にいと自分達の努力や成果の足りなさやそういうものばかり見せられるかも知れませんが、困難な状況で「ただそこに居る」と言うだけでもすごい事なんで

す。

大体、信仰の本質的な部分に喜びが無いというのは「おかしい話」です。そして教会は元々その喜びを「垣間見る」＝「先取り」する場所なはずなんです。だから、困難を乗り越える力が湧きます。

津和野のもりちゃんはお菓子を見せられ「キリストは嫌いだといいなさい」と言われ「天国の味の方がもっと美味しい」と答えたそうです。彼女がお菓子の美味しさを知らなかった訳でも、それを否定していた訳でもないでしょう。それを知るからこそ誘惑になり、それを越える喜びがあると知る機会にもなったと思います。

お菓子一つとっても「世の楽しみ」＝「誘惑」にもなれば「先取り」にもなる訳です。別に飲めや歌えの大騒ぎが信仰の本質ではありませんし、信仰生活は楽しいことばかりでも無いでしょう。ただキリストが神の国の福音を告げる時には受難や十字架の話と共に、飲み食いもしていたようですよ。

で、何が言いたいかと申しますとご復活のお祝いくらい単純に喜びなさい！という事です。そうすれば、私達の代わりに重荷を担ってくださる主に祈り、感謝する気持ちはずと湧いてくるはずだからです。

卒業おめでとう

この春、旅立ちの季節を迎えた教会学校の皆さんの声をお届けします

小6 KD

小学1年生の夏休みに、広島に引っこしてきました。この平和記念聖堂の教会学校で、たくさんの人達と出会うことができました。いつも、お兄ちゃん、お姉ちゃん達が、お世話をしてくれて、私はとても楽しく過ごすことができました。

中学生活では、勉強や部活をがんばります。そして、新しい友達との出会いがとても楽しみです。これからも、人との関わりを大切に色々な事を楽しく過ごせるようにがんばりたいです。

中3 MS

「教会学校を振り返って」

私は、生まれた時からこの教会に通っていて、昔から教会に行くことは自分の中で当たり前でした。小学校に入学して、教会学校に初めて参加したときはとてもはずかしかったのを覚えています。でもリーダー達がいつも私のことをかわいがってくれて、おこられることもあったけどとても嬉しかったです。中学校に入ってから、下の子達の相手をしないとイケなくて大変だったけど、多くの体験が出来てとてもよかったです。もうすぐ高校生になるので今まで以上に、しっかりして、侍者や下の子達の面倒をちゃんとやっていけるようになりたいです。

高3 KS

私は今まで何度か、教会に出会いました。最初の中1の時です。次は高1の時。そして高2でもう一度出会い、今に至ります。

中1の時には初めてキリスト教に触れ、学校の宗教の授業で学び始めました。

高1の時、中プロの本部スタッフとなり本番を経験すると、この共同体に加わりたいという気持ちが強くなり、高2になると受洗のための勉強を始めました。

勉強をしていた1年はあっという間で、気づけば洗礼式を終えていました。高3の1年間は教会にあまり足を運ばませんでしたし、卒業後は進学のため転出するので、もう離れてしまうのかと、少し寂しさも覚えます。たまに帰ってくるので、その時はまた、よろしくお願ひします。ありがとうございました。



編集後記

春はさまざまな場所で新しい環境や、仲間と出会う季節です。私もこれまでとは全く異なる部署に異動になり、通勤場所も変わりました。市内なのに自然を存分に感じられる環境に、仕事に慣れない気持ちが癒やされます。木々や鳥たち、そよぐ風…、私たちの生活を包み込んでくれる自然を大事にしなくてはと改めて感じます。

(ひ)